

「巣箱のヘビ対策 (3)」

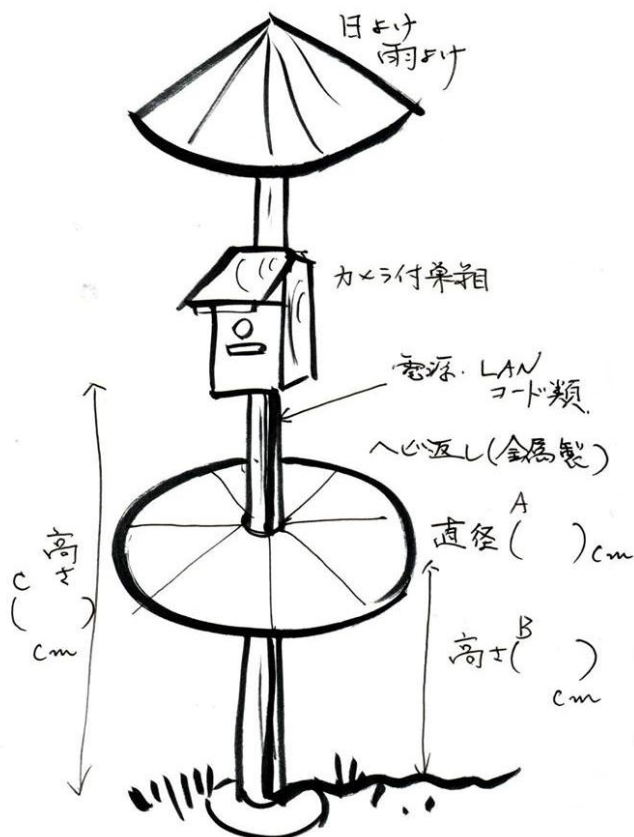
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



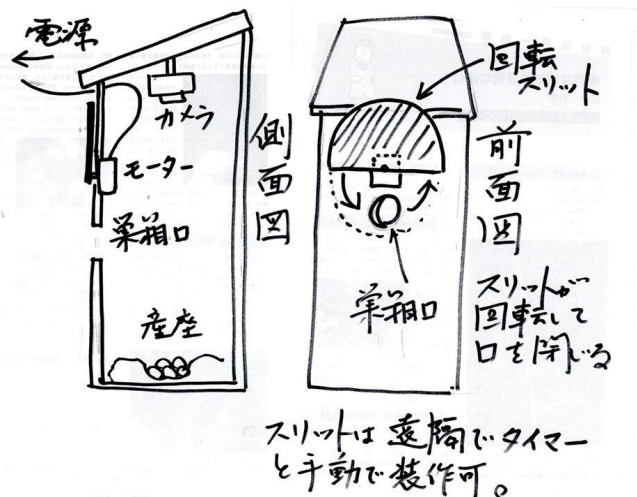
今回 4 羽のヒナがヘビの被害に遭った巣箱は、山荘裏庭の物置の壁に設置してある。要するに、この設置の場所と方法に問題があるのだ。屋根からヘビが来た可能性も 0 ではないと考えられる。



そこで、鳥類の専門家と「チャット」で相談し、このような巣箱の設置方法を考えた。ヘビは別の樹木の枝からジャンプして巣箱を襲うこともある。来年はこの「鬼太郎ハウス」のような奇妙な巣箱を、周囲 10

メートル以内に樹木がない場所に設置する予定だ。これなら、ヘビが一年以内に進化して、翼を持たない限り、巣箱への侵入は不可能だろう。

しかし、念には念を入りたい。巣箱の設置に際していろいろとご指導いただいた鳥類の専門家によれば、営巣観察用の巣箱の場合、親鳥の出入りのない夜間は、巣箱口をテープで塞いで、ヘビの侵入を防止しているという。しかし、巣箱の設置場所は東京から 150km 以上離れた北軽井沢である。滞在中は良いが、毎晩巣箱口を塞ぎに行くわけにはいかない。



そこで、このような装置を考えた。遠隔で回転するスリットを操作し、東京から巣箱口を塞げる装置だ。



写真は、山荘の設置してある巣箱口観察用のカメラである。ズーム、上下、左右などを遠隔地から自由に操作できるだけでなく、「外部出力端子」を備え、100V 電源の ON・OFF をその場にいらなくても操作できるという特徴を有する。要は、電源の ON・OFF という単純な操作のみで、巣箱口を閉じる・開けるという動作ができる装置を自作すれば良いのだ。欲を言えば、夜間はタイマーで、またヘビが近寄ると自動的に巣箱口を閉じる仕様にしたい。これらは十分に可能だと思う。